

第四回橋野御工史講座(八月十二日)

◎題目 弥生時代〜古墳時代の杵島豪族(杵島古墳)と杵島山歌垣について  
①戦前杵島山周辺に存在していた杵島山古墳群

②戦前杵島山下は何百と教えられる古墳が存在していた。

③戦後密柑園造成などで多くの古墳がこわされた

④杵島山古墳の特徴…線刻模様が隣石に刻まれている↓線刻文様文化園

⑤杵島山の豪族

(1)大陸からの渡来民…航海術と製鉄技術をもつ(海岸の砂から鉄を採取す)

(2)漁業と製鉄 農業を以て発展していた。

(3)製鉄の海岸の砂原を求めて日本の中央に進出(別紙地図) 太平洋岸 日本海岸 鹿島地名

(4)大和に進出した杵島族は神武系勢力に力入り豪族の長は建借間命と云う名を賜うた。(一族は多氏又は太氏と呼んだ)

③杵島山歌垣について(日本三大歌垣の一つ、筑波山歌垣 櫻津の歌垣山の歌垣)

④杵島山の豪族達が春秋の二期豊作を祈念し歌ぐらへをしたのが歌垣である。

⑤杵島歌垣の歌(杵島曲)

あうり降る 杵島か岳のさのみと、草取りのねま 妹が手を取る

④筑波山歌垣について

筑波歌垣の模様も杵島山歌垣と同じで、又杵島曲がよく歌われる(なぜか?)

⑤東アジア文化交流研究会(学会)が歌垣の原郷 探査を計画実行した。

⑥平成四年 西日本新聞S.T.S等の協力で大調査団が雲南に派遣され武雄市文化会館で報告発表会があった

雲南の歌垣(20名) 学者二十五名 歌垣の歌比べ、報告、現地の写真展など

神祭りの島居と一め縄 高床建築の家(吉野が里の高床建築とそっくり)

⑦歌垣の研究が建借間命 朝廷の命 常陸の賊平定の歴史が解明される

⑧建借間命の水軍 霞加浦の岸から常陸の賊平定

⑨建借間命 那珂国造に任命される

⑩建借間命は未開の原野を開墾し広々と耕地を作る↓杵島山の九州のうへへの移住

田杵島のり移住した人は春秋のニ季筑波山に登り故郷をしのび歌垣を行う  
⑤茨城県には今も多古墳群や建借間命を祭る神社が各地にたくさんある  
⑥このような経緯で肥前風土記常陸風土記の研究が盛んに行われている  
⑦茨城民俗学会(会長藤田稔氏)茨城と佐賀で郷土史共同研究の  
呼びかけに東武

。白石町が共同研究に取り組んでいる(建借間命の石碑歌垣公園)

。水戸市の公民館で「ひのくに祭開催」白石所より参加

⑧橋所南橋崎出店の神武天皇の石碑

「我々の首長建借間命は神武天皇の側近だったと云う考まで  
石碑を建てたのか？」

⑨北橋崎の夏祭↓山神様へ竹製の鳥居を建てた

(雪南の字三典  
竹製の鳥居)

(神武天皇の石碑のソノにも)

### (六) 参考

。建借間命の奈良に於ける領地

奈良県磯城郡田原本町多地区

(以前は「多村」と呼ばれていたが町村合併で村名はなくなつた  
多地区には簡易郵便局がある)